

# が ん ば れ 神 戸



倒壊した神社の撤去作業をする神職  
(尼崎市武庫元町で、午前 8 時)

# 岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

## 第 20 号

平成 7 年 11 月 吉 日  
発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町 1 番 1 号  
郵便番号 8 0 6

電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330

## 神社は地域の心のよりどころ

岡田宮 宮司 波多野 直之

電話のベルが鳴った。受話器を取る。モニングコールだった。

三月八日午前四時。外はまだ暗く、眠たい。神戸に来て三日目。体じゅうの筋肉が痛い。労働奉仕のせいだろう。三月六日、全国の青年神職約五百人が震災で倒壊した神社の支援活動の為に神戸に集合した。

今日も五時にホテルのロビーに集合して出発。神戸の中心地に向かうにつれて、傾壊した家屋、屋根に被せた青いビニールシートの数が、どんどん増えていく。

六時半に東灘区の本住吉神社に到着。境内の燈籠、記念碑、石塀は全て倒れ、拝殿は柱が折れて斜めに傾いている。がれきを集め、倒木を整理して、トラックにのせて搬出。昼からは神輿庫の整理。片付けをしていると、参拝に来られたお年寄りが来られて「兄ちゃん達はどここの大工さん?」

「我々は大工ではありません。地震で被害にあった神社の支援の為に全国から集まった福岡県の青年神職です。」  
「有難い話やな。ウチらも手助けしたいんやけど、我家もベシヤンコになっしてしもうたんや。地震の時は家を飛び出して氏神様に避難したんや。兄ちゃん達、遠くからよう来てくれたな。有難うな。」

震災当日、神社の広い境内に多くの人々が避難し、家を失った方たちが神社の会館に仮住をしているケースもたくさんありました。

神社の絵馬掛には、一日も早い神戸の復興を祈る人々の願いが書かれた絵馬がたくさん掛けてありました。

一日も早い復興を心からお祈りいたします。

皆様からいただいた義援金は神社本庁を通して、神戸に送られました。



# 神社総代研修会



四月一日  
 未益友之助総代会会長以下四十  
 八名を乗せたバスは、島根県益  
 田市鎮座の向横田八幡宮に向け  
 て出発。  
 神社に到着後、正式参拝。栗  
 栖眞樹宮司様の社頭講話を拝聴  
 後、直会会場へ。  
 会場には地元的神田神楽保存

会の方々が見神楽をご披露し  
 て下さいました。大変楽しいひ  
 とときを過ぎて頂きました。  
 帰りには津和野に立ち寄り自  
 由行動。  
 今回も多くの神社関係の研修  
 をしてまいりましたので、今後  
 の神社運営に反映していきたい  
 と思います。



## 郷土地名考 ⑱

### 沖田 (おきた)

昔は上津役村の大字下上津  
 役の小字で水田が広がってい  
 た。陸から海を指して沖とい  
 うが、河岸段丘の広い場所も  
 オキと呼ぶ。山手をソラと言  
 うが、ソラから見てオキなの  
 である。山林や農地をつぶし  
 て生まれた新開地の町名は、  
 業者のつけた願望地名でなけ  
 れば小字名を取ったのが多い。  
 沖田の隣り、中の原、上の  
 原も住居表示に採用した上上  
 津役の小字地名。中の原は小  
 字では中原(ナカハル)にな  
 る。もともと農地や原野であっ  
 たから租税地としての地名の

ほかにこれといった由緒、起源は見当  
 たらぬのが普通。  
 三ヶ森商店街の商圈に入る新興住宅  
 地でピカピカの商店や住宅が増えてい  
 る。  
 香月(かつき)  
 勝木、加月とも書いた。由来は昔、  
 日本武尊が熊襲征伐に赴きこの地に泊  
 まって桜を賞で、花きり月清き地かな  
 と言ったから。  
 異説があつて、元は大和国葛城では  
 ないかという。その理由に香月郷は六  
 か村からなりその中に金剛がある。大  
 和の地名にも葛城、金剛があり、大和  
 からの地名移動だとしている。  
 そういえば六か村の中には他に畑、  
 楠橋があるが、畑は葛城の里にもある。  
 楠橋は金剛山に布陣した楠一族にちな  
 むとこじつけてもいいわけだ。異説で  
 は香月を往古、桂木、葛城とも表記し  
 たと述べている。  
 さらに異説は、日本紀によると日本  
 武尊は十月、熊襲征伐に下向し、十二  
 月には熊襲が減んでいる。翌年二月に  
 は天皇に報告しているから、日本武尊  
 が花の季節に香月にいたはずはないと  
 いう。もっともである。  
 北九州の地名移動説には北九州↓大  
 和、大和↓北九州の二説がある。これ  
 は後者になる。

# 「追悼・感謝」

## 終戦五十周年福岡県民の集い

### 二千二百人が参列して祭典

八月十二日、福岡サンパレスで終戦五十周年県民委員会(会長・高千穂有

英神社庁長)主催で開催され、神社関係者や県民約二千二百人が参加した。



集いは、午後一時から開始された。まず第一部で、

報恩感謝祭が斎行された。報恩感謝祭は、県神道青年会(波多野直之会長)の三十一人と県神社庁雅楽部会員の十人が奉仕。斎主・波多野会長が祭詞を奏上、斎員全員で大祓詞を奏上した。続いて「浦安の舞」を宗像大社の巫女が奉納し、玉串拝礼をおこなった。

第二部では式典がおこなわれ、国歌斉唱のあと英霊戦没者に黙禱を捧げた。高千穂会長は「終戦五十周年を機に私も国民は祖国に対する愛情、戦没者への追悼と感謝の心、大東亜戦争の正しい歴史観を回復していくべき」と式辞を述べた。次に、特別来賓として出席した中華民国の東方工商短

大・許國雄学長、バラオ共和国のイナボ・イナボ政府顧問、インドネシア共和国のイドリスノ・マジッド日本インドネシア経済新聞社特派員が挨拶した。最後に全員で「海ゆかば」を合唱した。

第三部では、陸上自衛隊第四師団音楽隊が演奏をおこない、「愛国の花」など懐かしい愛唱歌を演奏、参加者も手拍子をとったり、口ずさんだりしていた。(福岡県神社庁 小石)

## 阪神大震災街頭募金活動

福岡県神道青年会  
副会長

重 藤 将 宏

平成七年一月三十一日 木枯らしと小雪の降る中、使いすてカイロを体中に忍ばせ、ハンドマイクを片手に持ち、県内(博多・小倉・久留米)の三ヶ所において阪神大震災義援街頭募金を会員五十名により白衣・袴を着用し行ないました。はじめての体験の中で、恥ずかしさと寒さの中で道行く人々の心のもった、暖かい義援金五六一、二七二円が集まり、西日本新聞社を通して送りました。  
一月十七日以来阪神地区の被災者の方々の一日も早い復興をお祈りします。



寒風吹きすさむ中、白衣で

## 返事のない手紙

「思えば昭和十九年六月十九日、空母大鳳と共にあなたが帰らぬ人となりましてより早五十一年の歳月が流れ去りました。……」

マリアナ沖海戦で戦死した祖父に送る祖母の「返事のない手紙」は、第二次大戦の激戦地を巡る「第六回洋上慰霊祭」の一行に託されて、十五日、博多港を出港した。

手紙は、戦死の報を受けて、三人の子どもを抱きながら必死に涙をこらえたこと。出征にあたり、祖父が言い残したように、長男は教師にしたこと。『いつまでも米だけの農業ではだめだ』と祖父が丹精込めたりんご園が、戦中戦後の肥料、農薬不足でだめになり、木を切り倒した夕方、「あなたさえいてくれたら」と声を上げて泣いたことなどが綿々とつづられる。そして恋しい思い。「私も八十歳に

なり、髪も真っ白になりました。天国に行ったときは恥ずかしさでいっぱいですが、五十年間、海の底で冷えきった冷たい体をこの手で温めてやりとうございます。」

この手紙を書き終えた直後の昨年十二月二十二日、祖母は他界した。

慰霊祭を企画した福岡県八女郡広川町の渡辺守さん(七七)の元に、全国から届いた「返事のない手紙」は約六百通。遺族の半世紀の苦闘、変わらぬ愛情がつづられた手紙が、海底やジャングルに眠る兵士の元に届く。

(菊池 健)



## 戸畑の人よ

各地の夏祭りも、ほぼヤマを越したようだ。夏の祭りというのは、農村の春祭りや秋祭りと違って、都市が舞台である。アツアツ、ジメジメのこの時期、街に堆積した「ケガレ」を一掃するには、それなりの儀礼を必要とする。都市の過剰を排除する「穢い清め」の儀礼が。

だから、夏祭りの後は、いつもスッキリした気分になる。それにしても、今年は特に気分がいいな、と思っ理由を探ってみると、やっぱりありました。戸畑の提灯山笠のせいなのです。いや、大したものですね、戸畑の人は。

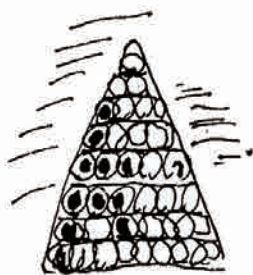
周知のように、戸畑の山笠は、先の北九州市の「第八回わっしょい百万夏まつり」に参加しなかった。「わっしょい」は、旧五市の夏祭りを集めた官製の催しだ。だから、これは「祭り」

というより「イベント」だろう。そんなものに参加してたら地元の本祭が衰退する、と戸畑の人は言ったと聞くが、まったく同感である。

祭りは本来、その土地の神を迎えて開くものだ。場所が肝心なのである。五つの祭りを一緒にやるなんて、一体どんな神を考えているのだろう。実は「欲の神」だったらしい。

「その土地に根ざす」ことを、現代思想は「バナキュラー」なんて難しい言葉で表現するが、まあ、ソバを食べるのに、出前を取るより店に行っておいた方がおいしい、ということと同じことです。

(東 靖 晋)



# 神社 なぜ 問答

(その19)



Q 身内に不幸があった場合、初詣は止めた方がよいのでしょうか。

A 毎年、今頃になりますと年賀状欠札の挨拶が届きます。今年不幸があつて、服喪のため、年頭の御挨拶を遠慮させていただくというものです。

この欄でも何度も回答がありますように、正月は「正月さま」をまつる神祭りの期間です。服喪中であれば、神祭りはできませんので、淋しいお正月になってしまいます。家庭で慎みの生活を送っているわけですから、神社に初詣をしたり、他家に新年の御祝を述べに行くことはありません。したがって年賀状も出さないといいわけでは

さて、ここで問題なのは服忌、服喪の期間です。この期間については、明

治七年に「服忌令武家の制を用い、京家の制廃止の件」という太政官布告が出され、江戸時代に武家の間に通用していた「服忌令」が採用されましたが、戦後はこれも廃止され、各地の慣例に従っているのが実状です。

親の死去に際しては十三カ月というのが、武家の制以来の服喪の期間ですから、新しい御神札も受けずに神棚の祭りもしない。このように厳格に今でも守っているところもあります。これは信仰の問題ですから尊重されるべきと思います。

一般的にいえる事は、現代では五十九日祭(あるいは四十九日)を過ぎれば忌明けで、神祭りも再開し、祝い事や初詣も差しつかえなし、という状況であらうと思います。

編集部より 神社や神道のことについて、御質問をお寄せ下さい。

御質問は一項目とし、五十字以内でお願いします。本社本庁教学研究所の協力でお答えします。

質問者名は出しません、お名前、連絡先をお忘れなく。



# 岡田宮と厄除

やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎むべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、人生の折目だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましよう。北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそいで御参拝下さいませ。様御案内申し上げます。

# 平成八年の厄年

厄年(男)

昭和四十八年生

二十四才 前厄 四十七年生

二十五才 大厄 四十六年生

二十六才 後厄 三十一年生

四十一才 前厄 三十一年生

四十二才 大厄 二十九年生

四十三才 後厄 十二年生

六十才 前厄 十一年生

六十一才 大厄 十一年生

六十二才 後厄 十一年生

厄年(女)

昭和五十四年生

十八才 前厄 五十三年生

十九才 大厄 五十二年生

二十才 後厄 四十年生

三十二才 前厄 三十九年生

三十三才 大厄 三十八年生

三十四才 後厄 三十六年生

三十六才 前厄 三十五年生

三十七才 大厄 三十四年生

三十八才 後厄

● 厄年大祭 二月節分日

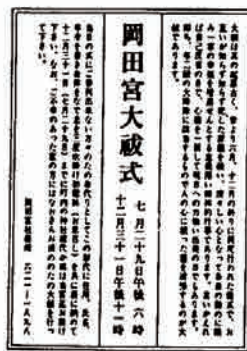
※年齢はかぞえ年でず。

### 年末年始の行事案内

#### ●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。



形代(表) しろ かけた

#### ●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事。午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

#### ●開運福引き 一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。一等は自転車、羽毛ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

#### ●昨年の一等

- 大分市 渡辺博 テレビ
- 八幡西区則松 曾 緑紅 自転車
- 八幡西区鷹の巣 子迫春美 自転車
- 山口県下関市 匿名希望 テレビ

#### ●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

#### ●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祝いをします。

#### ●どんどん焼祭 一月十五日

古くなった縄、門松等を焼納する神事。地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成八年

### 算賀の年祝

日本国には古い時代から人の寿命を加へゆく年の区切区切を慶び祝う風習があります。

この祝いを年賀とも算賀ともいいます。

どうぞご家族そろって岡田宮にご参拝され、今までの無事息災を神様に感謝すると共に更に更に向後の長寿安泰をお祈り下さい。

※日取は誕生日又は早めにされて下さい。

還暦	六十一才	昭和	十一年生
古希	七十才	昭和	元年生
喜寿	七十七才	大正	九年生
傘寿	八十才	大正	六年生
米寿	八十八才	明治	四十二年生
卒寿	九十才	明治	四十年生
白寿	九十九才	明治	三十一年生

※年齢はかぞえ年です。

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

## (株) 有川写真館

証明写真から記念写真まで  
各種お撮りしています。

岡田宮内にスタジオ完備

☎ 0120~622~080



北九州プリンスホテル、ベペ2F  
インドアプール前にオープン

各種衣裳取りそろえております。

☎ 0120~620~753